

第3学年4組 道徳科 学習指導案

- 1 主題名 大切な友達
内容項目 B [友情、信頼]
教材名 「なかよしだから」(出典：東京書籍「新しい道徳 3」より一部改作)

2 主題について

(1) 主題設定の理由

人は、互いに分かり合うことで、心が通じ、確かな友情が生まれる。相手を信頼し、友情を育んでいくことは、豊かな人生を送るうえで重要である。

本主題における内容項目B「友情、信頼」は、中学年において「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」と示されている。中学年の段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりが増えたり友達関係も広がったりしてくる。そして、気の合う仲間自分たちの世界を確保し、楽しもうとするため、関係がより密になり、友達を大切にする意識も強くなる。その反面、仲よしの友達との間で、よいことと悪いことの判断を曖昧にしてしまうことがある。嫌われたくないために、やってはいけないことを忠告できず、見て見ぬふりをしてしまったり、断れずに一緒にやってしまったりすることもある。また、友達同士の行き違いやすれ違いが起こることも少なくない。

友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。相手のことを考え、いけない時にはいけないと忠告したり、どうすることが相手のためになるのか考えたりして、互いを尊重しながら教え合い、助け合っていこうとする気持ちを育んでいきたい。そして、よりよい関係の在り方を考え、互いに助け合うことで友達の大切さを実感できるようにしたい。

(2) 児童の実態 (合計28名)

本学級の児童は、明るく元気で活発な児童が多い。進級時に学級編成があり、当初は友達関係に不安を感じていた児童も、現在では、業間休みに友達と誘い合って遊んだり、係や当番の活動では、友達と声をかけ合い協力しながら取り組んだりしている。中には、困っている友達に積極的に声をかけたり、手助けしたりする児童もおり、友達同士の関係も概ね良好である。しかし、仲のよい友達と活動する楽しさのあまり善悪の判断が曖昧になり、ルールを破ってしまったり集中できなかったりという場面が少なくない。また、自分の利害にこだわることで、相手の立場を考えずに単なる非難になっていることが多い。

そこで、実生活でも起こりそうな身近な内容の教材を通して、真の友情とはどのようなことなのか、友達のために注意するとはどのようなことなのかについて考えさせていきたい。そして、真の友情とは、「助け合うこと」の他に、相手のことを考えて「注意し合うこと」も大切であることに気付かせ、今後の友達関係について考えるよい機会としたい。

(3) 教材について

本教材は、児童の日常生活の中で起こりそうな身近な出来事が題材となっている。算数の宿題をうっかり忘れてしまった「ぼく」は、仲よしの実さんに教えてもらおうと思いつく。前日、実さんにカーブの投げ方を教えてあげたお返しに教えてくれるだろうと考えたからである。ところが、仲よしだから教えてくれると期待していた「ぼく」の気持ちとは裏腹に、実さんに断られてしまう。断られてわだかまりを残したまま帰宅する「ぼく」を通して、「仲よしだからこそ」と断った実さんの気持ちに触れ、本当の友達について考える教材である。

本教材において、断れられたやりとりまでを提示することで、児童が自ら問題に気付き、主体的に話し合っ解決していけると考える。

3 研究の重点との関連

○問題を把握するための役割取得

本時では、忘れてしまった宿題の答えを教えてもらおうと頼むが断られてしまうという「ぼく」と実さんのやりとりを通して、本当の友達について考えていく。子供たちの日常で起こりうる状況において、何が問題となっているのか、何について話し合っていくべきか、問題を把握するために役割取得を行う。登場人物の気持ちになり、二人のやりとりを実際に行ったり、観客として観たりして、気が付いたことや感じたことを出し合っていく。そうすることで、この教材における問題が明確になり、児童も主体的に取り組むことができると考える。役割取得においては、最初に、「ぼく」のみを児童に演じさせ、「実さん」は教師が演じるようにする。断られた「ぼく」は苛立っているのに対し、「実さん」は落ち着いて対応していることに気付かせた上で、両者を子供に演じさせる。

また、二人の会話から着目すべき言葉の意味について考えていくことで、本当の友情について深めていきたい。相手のことを考えて行動することの大切さや、友達が自分のことを考えて行動してくれていることに気付き、本当の友情について深めていくきっかけとしたい。

○意見の相違に気付くことができるような板書の工夫

本時は、口演法で教材を提示し、場面絵や短冊を用いて内容と本時の課題を把握できるようにしていく。その際、登場人物の「ぼく」と「実さん」の言動をわかりやすいように上下に対比して掲示していく。「ぼく」と「実さん」の言動や状況などの内容が更にはっきりし、役割取得と組み合わせることで、問題を把握しやすくなると思う。

同様に、役割取得で気付いたことも「ぼく」と「実さん」のそれぞれの意見を対比して板書していくことで、「ぼく」と「実さん」の友達像の食い違いに焦点を当てていきたい。そうすることで、「本当の仲良しな友達」とはどのような友達なのか深まりのある話し合いができると考える。

4 指導構想

大切な友達

【国語】

「おすれられない
おくりもの」

- ・あなぐまが残して
くれた贈り物に
ついて読み取り、
友達のために行
動することの大
切さに気付く。

【体育】

「小型ハードル走」

- ・友達とリズムよく
跳び越えられる
コースを話し合
いながら、めあて
が達成できるよ
う友達と活動す
る楽しさを味わ
う。

道徳「いいち、にいつ、いいち、にいつ」

B「友情、信頼」

- 友達と互いに理解し、助け合っ
ていこうとする態度を養う。

道徳「そうそう、そこが同じ！
そうそう、そこがちがう！」

B「友情、信頼」

- 友達と同じところ、違っている
ところを知り、互いに認め合
おうとする心情を養う。

道徳「なかよしだから」(一部改作)

B「友情、信頼」

- 友達のことをよく考えて、互
いを理解し助け合っ
ていこうとする心情を養う。

道徳「たまちゃん、大好き」

B「相互理解、寛容」

- お互いに理解し合っ
て、自分と異なる意見
も大切にしようとする態度
を養う。

【日常生活】

帰りの会

「今日の輝きさん」

- ・友達のよいところ
を見つけ、伝え合
うことで、友達を
大切に
する気持ちを
育む。

帰りの会

「係ミニミーテ
ィング」

- ・係の友達と話し合
い、学級のため
になる活動を協
力して考えたり、
伝えたりするこ
とで、仲間意識
を高める。

5 本時の指導

(1)ねらい

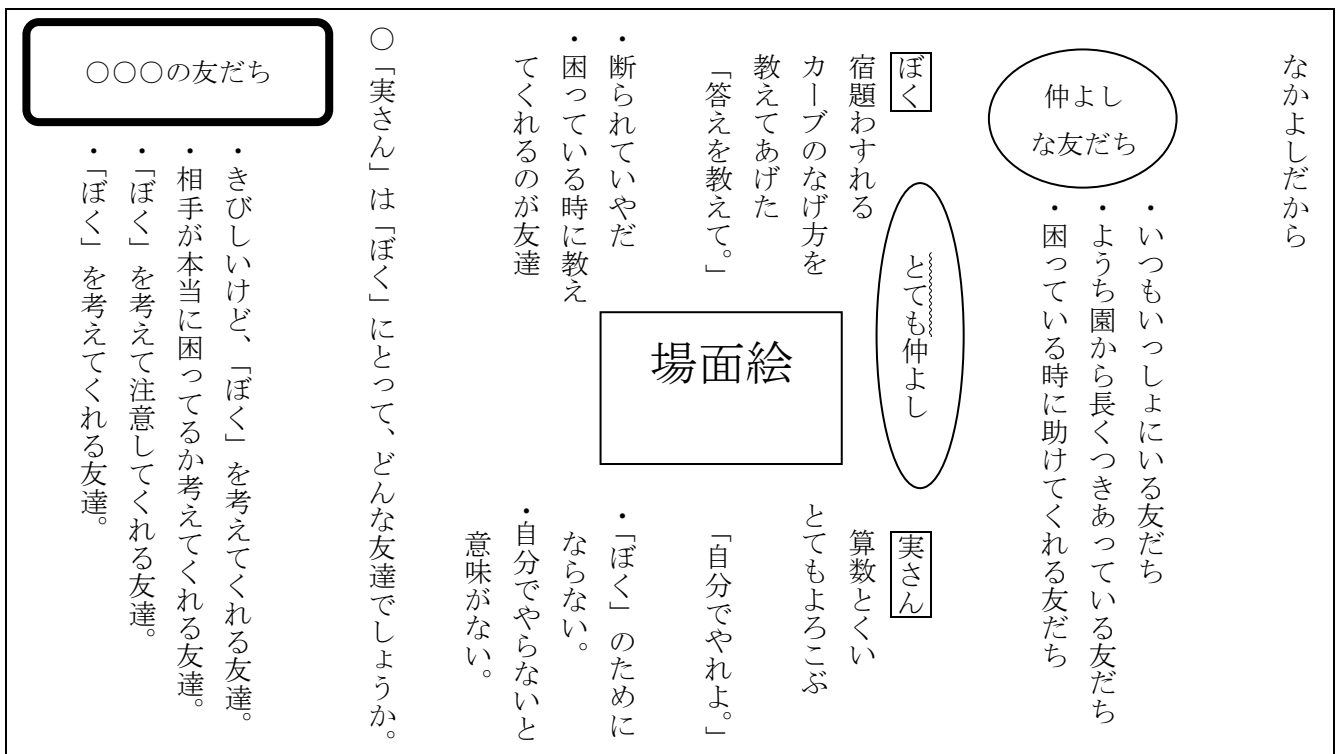
友達のことをよく考えて、互いを理解し助け合っていこうとする心情を養う。

(2)展開

過程	学習活動と発問 (○)	教師の支援 (○) 評価 (☆)
導入	<p>1 仲よしいな友達について想起させ、学習の見通しをもつ。</p> <p>○仲よしいな友達とは、どのような友達ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒にいる友達。 ・困っている時に助けてくれる友達。 	<p>○児童の生活体験から、具体的な友達像を想起させ、「仲よしい」のイメージを学級全体で共有できるようにする。</p>
展開前段	<p>2 教材「なかよしだから」を聞き、話し合う。</p> <p>○二人のやりとりを演じて、気付いたことを話し合ひましょう。</p> <p><役割取得(動作化)></p> <p>「ぼく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断られて嫌だった ・教えてほしいのになんで。 ・断られて怒っている。 <p>「実さん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりなよ。 ・答えを教えるのはダメだよ。 ・「ぼく」のことを考えたら、教えるのは良くない。 <p>「観客」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」に文句を言われているのに、「実さん」が怒っていないのは、なんでだろう。 ・「実さん」は、「ぼく」のためを思って断ったのではないか。 ・困っていたら教えてくれるのが友達なのに。 ・友達だったら教えてあげた方がいいと思う。 	<p>○教材文は口演法で提示する。その際、場面絵や短冊カードを用いて、内容が理解できるようにする。</p> <p>○問題を把握するために役割取得を行い、演者や観客として気付いたこと等を話し合えるようにする。</p> <p>○最初は、児童には「ぼく」のみを演じさせ、「実さん」は教師が演じる。断られた「ぼく」は苛立っているのに対し、「実さん」は落ち着いて対応していることに気付かせるようにする。その上で、両者を子供に演じさせ、気付いたことを話し合えるようにする。</p> <p>○「ぼく」の立場の意見と、「実さん」の立場の意見を対比して板書して、「ぼく」と「実さん」の友達像の食い違ひに気付かせるようにする。</p> <p>○話し合いが停滞している場合は、「なかよしだから、なお教えられないよ」や「宿題とボール投げとはちがうよ。」という実さんの言葉に着目させるようにする。</p>
展開後段	<p>3 本当の仲よしいな友達とは、どのような友達か学級全体で話し合う。</p> <p>◎「実さん」は「ぼく」にとって、どんな友達でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しいけど、「ぼく」を思ってくれる友達。 	<p>○役割取得で得られた意見や板書をもとに、「ぼく」にとっての友達とその理由をワークシートに記入させてから、話し合いを行う。特に、理由をしっかりと聞き、どのような考えや気持ちが大切だと考えるのかが明確に</p>

<p>終末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が本当に困っているか考えてくれる友達。 ・「ぼく」を考えて注意してくれる友達。 ・「ぼく」のことを考えてくれる友達。 ・自分のためにならないことを考えてくれる友達。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習を通して、今までの自分を振り返り、これからどのようにしていきたいかワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われて嫌なこともあったけど、自分のことを考えてくれていたかもしれないと思った。 ・友達のことを考えて、注意したり助けたりしたい。 ・友達のことを考えていきたい。 	<p>なるようにする。</p> <p>○話し合いで挙げられた児童たちの「本当の仲よしな友達」像を、導入で挙げた「仲よしな友達」と比較し、児童の言葉で「〇〇〇の友達」とまとめられるようにする。</p> <p>☆友達のことをよく考えて、互いを理解し助け合っていこうとしているか。</p> <p>○「仲よし」の友達について、今までどのように考えていたのか、自分を振り返らせるようにする。</p> <p>○実際の生活に生かしていけるように、具体的な場面を考えて、これからどうしていきたいかを書くよう助言する。</p> <p>☆本時の学習を通して、自分を振り返り、友達のことをよく考えて、友達を大切にしようという意欲をもつことができたか。</p>
-----------	---	--

(3)板書計画



6 本時の評価

友達のことをよく考えて、互いを理解し助け合っていこうとする気持ちをもつことができたか。
(観察、発言、ワークシート等から)

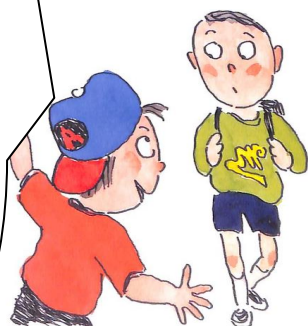


なかよしだから

名前

月
日

・「実さん」は「ぼく」にとって、どんな友だちでしょうか。



わけ

・今日の学習を通して、今までの自分をふり返り、これからどうしていきたいですか。

■学習のふりかえり ◎よくできた ○できた △あまりできなかった

友達の意見を聞くことができましたか。

お話をもとに自分のこととして考えましたか。

今日の学習で大事なことがわかりましたか。

学習したことをこれから生かしていこうと考えましたか。

--	--	--	--

もんだいを見つけて
考える

よい友だちって
どんな友だち？



あなたは、
その友だちの
友だち。

友だちとしんらいし合う

17 なかよしだから

朝、学校へつくと、ぼくは、算数のしゅくだいをするのをわすれていたことに気がつきました。(こまったな。そうだ、実^{みの}さんに教えてもらえばいい。) と思いついて、ほっとしました。

実さんは、ぼくとてもなかよしで、算数がとくいです。それに、きのう^{ふたり}二人でボールなげをして、ぼくがカーブのなげ方を教えてあげたのです。実さんは、とてもよろこんでいたから、そのおかしに答えを教えてくださいました。きまっている、と思ったのです。

実さんがやってきたので、ぼくはとんでいきました。

「ぼく、しゅくだいわすれてきたんだ。答えを教えてください。」

実さんは、ぼくの顔をじつと見て、だまっています。 10

「どうしたの。きみもわすれたの。」

「ううん。ちゃんとやってきたよ。」

「よかった。じゃあ、教えてよ。」

すると、実さんは言いました。



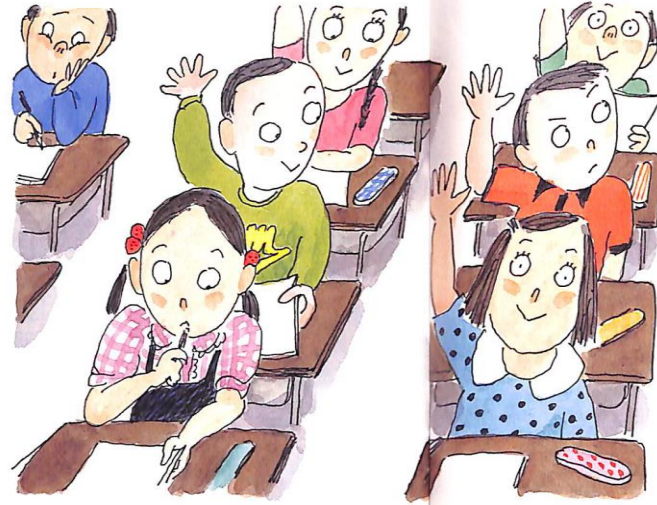
考えながら
読もう

もっとよい友だちになるために、あなたは
どんなことをしたいですか。



考えるステップ

- 1 「なかよしだから、なお教えられないよ。」という実さんのことばについて、「ぼく」はどんなことを考えたいでしょう。
 - ア なぜ、あなたはそう思いましたか。
 - イ みんなで話し合ってみましょう。
 - ウ 話し合って気づいたことは、どんなことですか。
- 2 「ぼく」にとって、実さんはどんな友だちでしょうか。
- 3 もっとよい友だちになるために、あなたはどんなことをしたいですか。



ふりをして、口をききませんでした。
家へ帰ってしばらくすると、ぼくは、学校で実さんにしたことが気になってきました。
そして、実さんがなぜ、「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのか、考えこんでしまいました。
5

とおっしゃったとき、実さんは手をあげながら、ぼくのほうを見ました。ぼくが手をあげているのを見て、実さんにはっこりしました。でも、ぼくは、ふん、とそつ

ぽをむきました。
15

休み時間にも、ほうか後にも、実さんはぼくに声をかけてきましたが、ぼくは知らない

「まだ時間があるじゃないか。もんだいが三つしかないんだから、自分でやれよ。」
ぼくは、びっくりしました。
「どうして……。きみは、ぼくとなかよしだろう。」
「なかよしだから、なお教えられないよ。」
「きのう、カーブのなげ方を教えてやったじゃないか。」
「これはしゅくだいだぜ。ボールなげとはちがうよ。」
ぼくは、かっとして、
「そんなのあるか。もういいよ。」
と言って、せきにつきました。
しゅくだいは、やっと間に合いました。 10
答え合わせがおわって、先生が、
「ぜんぶできた人は、手をあげなさい。」
と

これ以降は削除する。